

鉄道従事員への教育

当社では、鉄道従事員として、自らの知識・技能の習得に努め、安全・安心・快適な鉄道であるための使命を果たせる人材を育成するため、部署・職位別の教育訓練を行っています。

鉄道教習所

鉄道教習所は、国土交通大臣指定の動力車操縦者の養成所として運転士に必要な知識・技能の教育を行っている他、事象事例のパネル展示やCAI(コンピュータ支援教育)教材の製作など、教育内容の充実を図っています。



事象事例のパネル展示

駅業務訓練室

実際の駅を再現し、駅で使用している自動券売機や自動改札機などを設置しています。駅では実施することが難しい収入金の締切業務などの教育や接遇向上訓練を行っています。

ホーム訓練室



実際のホームを再現し、列車非常停止ボタンや転落検知装置などの機器を設置しています。これらの機器を実際に動作させて、異常時における迅速かつ的確な対応ができるよう訓練を行っています。

運転シミュレータ

コンピュータ・グラフィック映像を活用した運転士訓練機能および車掌訓練機能があります。昼夜・降雨などさまざまな条件が設定でき、乗務員の教育や異常時対応訓練などを行っています。



訓練の様子(上)、ホームドアの訓練装置(下)

運転士の養成

運転士になるためには、駅係員、車掌を経験し、国土交通大臣指定の動力車操縦者の養成所である鉄道教習所で学科講習と技能講習を合わせて約8カ月間受け、試験に合格しなければなりません。運転士になった後も3年間のフォロー教育および監督者による定期的な添乗指導などを行い、知識・技能の維持・向上を図っています。

入所から運転免許交付までの流れ



乗務員の資質管理

列車の乗務に際し、監督者は当日の業務内容を指示するだけでなく、アルコールチェックも含め心身状態を確認しています。乗務員は1年に2回健康診断を受診している他、継続的に適性検査を実施し、資質管理を図っています。

総合事故復旧訓練



毎年、あらゆる災害や鉄道事故の発生を想定し、鉄道事業部門をはじめ、開発事業部門なども参加して訓練を実施しています。実際の車両を使った事故復旧訓練や、情報・連絡体制の確認、お客様の避難誘導訓練などを行っています。

日々の教育訓練

各現場職場においても定期的に教育訓練を実施しています。駅係員は転てつ器が故障した場合の対応訓練、乗務員は踏切事故を想定した訓練などを実施しています。また、保線や電気、車両などの技術系職場では、レールの折損や架線の断線、列車の脱線などの復旧訓練を実施しています。